

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
社会の変化に的確に対応するために、知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性と創意に満ちた生徒を育成する。	①特色ある学校づくり(開かれた学校づくりの推進) ②「学力」の育成(確かな学力づくりの推進) ③「心力」の育成(豊かな心づくりの充実) ④「体力」の育成(たくましい心と体づくりの推進)

3 目標・評価

①特色ある学校づくり(開かれた学校づくりの推進)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○開かれた学校づくり	・学校情報の発信 ・学校の公開 ・学校評価の実施	・学校教育活動にかかる情報発信に努める。 ・HPの定期的な更新を行う。 ・学校行事や授業参観への保護者の参加率を4割以上に上げる。	・学級だより、保健だより、図書館だより、学年だより、学校だより等を発行して、学校の様々な情報を発信する。 ・学校行事などは早めに案内をし、携帯メールを利用した呼びかけを実施する。 ・保護者が行事に参加しやすい日程を考慮する。 ・開かれた学校づくり委員会等を開催して情報を公開し、評価の適正化を図る。
		・各学校との交流及び連携	・校区内3小学校との交流及び連携 ・西部中学校との交流及び連携	・小・中連携により、地域団体との連携強化を深める。さらに、地域行事への積極的な参加や協力を推進し交流の充実を図る。 ・日曜参観等の同時開催を含め、市内中学校として学校行事や部活動を通しての交流や連携を図る。

②「学力」の育成(確かな学力づくりの推進)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力の向上	・指導方法の改善・充実を図る	・「わかる授業」との生徒の評価を7割以上に上げる。 ・長期休業中における補充学習を計画的に実施し参加者の7割以上に満足させる。 ・2学期からの3年生の放課後学習に指導者をおき、参加者の7割以上に満足させる。	・TTや少人数授業の充実を図る。 ・表現活動や活用を取り入れた授業の充実を図る。 ・授業研究会を計画的に実施する。 ・各学年で長期休業中や放課後学習の内容を検討し実施する。 ・小中連携で学力向上を研究する。(活用力)
		・家庭での学習習慣の確立	・家庭学習時間が1時間以上の生徒が6割を超える。 ・家庭学習の指導助言を行い、宿題提出率を7割以上に上げる。 ・伝えるノートを活用し、望ましい学習習慣と生活リズムを確立させる。	・伝えるノートを保護者と教師が共有し、生徒の生活習慣の確立を図る。さらに、家庭との連携の中で、家庭学習の習慣づけを図る。 ・小中連携で家庭学習習慣についての研究を進める。

③「心力」の育成(豊かな心づくりの充実)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	・道徳教育の充実 ・人権意識の高揚 ・ボランティア体験活動を通じた思いやりの心、共に生きる心の育成 ・生徒指導の充実	・全学級が、道徳の授業を、保護者に公開する。 ・性教育を充実させ、講演会を実施する。 ・校外のボランティア活動への参加を促す。 ・学校が楽しいと思う生徒が9割を超える。 ・安心して学校生活が出来ると思う生徒が9割を超える。	・全担任が年に1回は、道徳の時間を公開する。 ・生徒会を中心に校外で、ボランティア活動を企画し、体験活動や福祉教育の充実を図る。 ・教育相談を実施し。 ・Q-Uテストを活用した学級づくり。 ・差別やいじめを許さない思いやりのある学級づくり、支持的風土のある学級づくり。人権作文や人権集会、標語への取組を充実させる。 ・毎月、生活アンケートを実施し、生徒の問題の早期発見につなげる。

④「体力」の育成(たくましい心と体づくりの推進)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	・望ましい生活習慣の形成 ・健康な体づくり ・食育指導の充実	・早寝早起きの習慣が出来ると答える生徒が7割を超える。 ・朝食喫食率95%以上とする。 ・家庭で、テレビを見たりゲームをする時間が3時間以上ある生徒を1割以下にする。 ・部活動をがんばっていると答える生徒が9割を超える。	・3年間を通した健康指導を充実させる。健康観察や生活習慣調査等で、生活の実態を調べ、家庭への啓発を図る。 ・食育強化月間等に合わせ、学校全体で食育指導を実践する。 ・保護者との連携を深め、基本的な生活習慣を身につけさせる。 ・心・技・体の育成・充実を図るため、部活動への取組を推進させる。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
特定課題	●教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	・教職員のICT活用に係るスキルアップの向上を図る。	・全職員がICT機器を活用した効果的な教科指導を行うことができるようになる。	・研修会等へ積極的に参加する。 ・授業研究でICT機器を取り入れた研修会を実施する。(全職員が機器を活用した授業を実践する)
	●いじめ問題への対応	・いじめの未然防止に努め、早期発見、早期対応を行う。 ・組織的に対応する職員体制を整える。	・職員のいじめ問題への対応や取組に対する、生徒評価、保護者評価で、8割以上の評価を目指す。	・毎月、生徒の生活アンケートを実施し、生徒の状況を把握し、予防を含め早期発見につなげる。 ・いじめの定義を再確認し、小さなことでも常に報告・連絡・相談を繰り返し、情報を共有しながら、判断から取組につなげ、生徒に安心、安全の環境を作り上げる。
	○教職員の資質向上	・「めざす学校を支える教師像」を目標として常に研鑽を重ねる。	・職員の接客や応対での保護者の満足度を9割以上に上げる。 ・教師への信頼している保護者を7割以上に上げる。 ・先生が生徒の気持ちがわかってくると回答する生徒が8割以上に上げる。	・服務規律の保持に努める。 ・外部講師による研修会を実施する。 ・校内研修会を充実させる。 ・講演会や研究発表会等へ主体的に参加する。 ・研修会等へ参加しやすい校内体制をつくる。
	○危機管理体制の整備	・危機に際してすぐに機能する「危機管理マニュアル」の定着。 ・危機に対して、敏感で的確な行動ができる体制整備。	・学校で起こる危機に関して未然防止に努めている教職員が9割を超える。 ・危機に直面した際に的確な対応ができると思う割合が、職員8割、生徒7割を超える。	・マニュアルについて理解・徹底を図る。 ・関係機関との連携をとるとともに、各種訓練を実施し、体験的な理解を図る。 ・多くの情報を発信し、危機意識を高める。
	○掃除やあいさつの充実	・目指す学校像、「明るく元気な学校」「美しい学校」の実施 ・無言掃除指導の徹底 ・生徒、職員お互いに元気のよいあいさつを交わす	・無言掃除をきちんとできていると答える生徒が9割を超える。 ・地域で元気なあいさつができているという生徒が9割を超える。	・生徒会やPTAとの連携を中心とした挨拶運動の充実と教職員の指導体制を確立する。 ・教職員、保護者ともに挨拶を交わしあうように呼びかける。